



令和6年9月1日  
佛教大学附属こども園

「仏教保育 9月のねらい」

報恩感謝

## 「感謝の気持ちを言葉に」(学生のことば)

園長 佐藤和順

佛教大学に保育職を志す幼児教育学科が3年前に開設されました。学生の多くが実習や授業、ボランティアで本園に足を運んでいます。保護者の皆さまもその姿を見かけたことがあろうかと思います。1年生の授業の課題として、園の保育目標を家庭と共有することを目指し、園だよりの今月のことばを学生に作成してもらいました。今月から3回、「学生のことば」を紹介させていただきます。幼児教育学科1年生江崎理媛さんの「今月のことば」です。

セミの声音がいつの間にか聞こえなくなり、高くなった空にアキアカネの姿が現れるようになりました。夏の思い出と共に、なんだか一回り大きくなったような、たくましくなった姿の子どもたちが元気いっぱい活動していることと思います。

今月の保育の目標は「報恩感謝(ほうおんかんしゃ)社会や自然の恵に感謝しよう」です。社会の仕組みは、自分ひとりでは何もできません。同時に衣食住のすべてに自然の恵みがなかったら一日も生活することができません。謙虚に社会や自然に感謝する心を育てましょうということです。

高校からがらりと生活が変わった大学生活。衣食住のすべてにおいてたくさんの人に支えられていることを身に染みて感じる毎日を過ごしています。人は決して一人では生きていくことができません。自然の恵みやたくさんの人やもののおかげで今の健康な自分がいます。だからこそ、してもらって嬉しかったことや感謝の気持ちは、「ありがとう」と素直に言葉にして伝えることが大切だと感じました。

私が好きな言葉の一つに「恩送り」という言葉があります。「恩返し」とは、助けや優しさをくれた相手に何らかの形でお返しすること。これに対して「恩送り」とは、自分が受け取った思いやりある行為を受け渡していくこと、いわば「恩のバトンリレー」です。保育者や保護者が子どもたちに恩を返すだけでなく恩を送れば、きっと子どもたちもその恩を友だちや身近な人に送ってくれるはずです。「恩送り」は、その喜びや感謝を渡す人数に上限はありません。保育者や保護者の一つの優しさが子どもたちにも伝わり、温かな恩のバトンが次々と無限の広がりを見せてくれることでしょう。

